

# 水中不分離性コンクリート用流動化剤・標準形 フローリックNSW

水中不分離性コンクリートは、水中施工においても材料分離は少なく、かつセルフレベリング性を有するため、海洋、港湾、河川などの重要構造物への適用例も多く、急速に普及しております。

フローリックNSWは、水中不分離性コンクリート製造時にコンクリートを流動化するために新たに開発された水中不分離性コンクリートの専用混和剤で、JIS A 6204（コンクリート用化学混和剤）の流動化剤・標準形に適合いたします。

## 物 性

主成分	メラミンスルホン酸系化合物
外観	茶褐色液体
塩化物イオン (Cl <sup>-</sup> ) 量	0.01%*
アルカリ量	2.0%*
密度 (g/cm <sup>3</sup> )	1.11~1.15

(※分析値例)

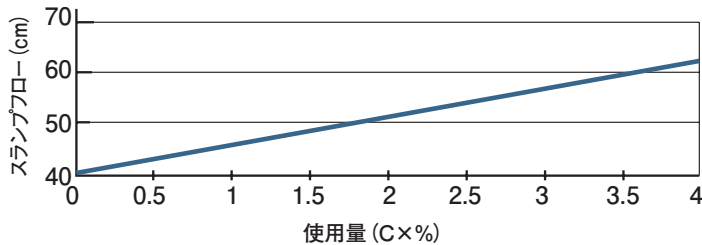
## 特 長

- 高い流動性を発揮いたします。
- メラミンスルホン酸系化合物を主成分とし、遅延性はわずかです。
- スランプフローの保持性に優れるため、良好な充填性およびセルフレベリング性を発揮します。
- セルローズ系、アクリル系いずれの水中不分離性混和剤に対しても効果的に流動化できます。
- コンクリート中の鉄筋、鋼材などの発錆の原因となる塩化物を含みません。



## フローリックNSWの標準使用量

フローリックNSWの使用量は、水中不分離性混和剤の主成分、使用量、コンクリートの配合条件、温度および流動性などによって大幅に異なりますので、必ず試し練りを行って使用量を決めてください。



水中不分離性混和剤：セルロース系

単位セメント量：350～450kg/m<sup>3</sup>

## フローリックNSWの配合例

配合	設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	Gmax (mm)	スランプフロー (cm)	空気量 (%)	W/C (%)	s/a (%)	単位量 (kg/m <sup>3</sup> )				
							W	C	AE減水剤 (1.0%)	水中不分離剤	流動化剤 (2.0%)
1	18	20	52.5	4.0	60	40	215	358	3.58	2.5	7.16
2	21	20	52.5	4.0	55	40	215	391	3.91	2.5	7.82

AE減水剤：フローリックS

水中不分離性混和剤：セルロース系

流動化剤：フローリックNSW（流動化剤・標準形）

## 用途

- 流動性、充填性を生かした間隙充填施工
- 材料分離、水質汚濁防止に配慮した施工
- 水中での鉄筋コンクリート構造物施工
- 張石固結や捨石マウンド固結の施工
- 災害復旧、補修、補強工事など

## 使用上の注意

- 使用量はセメント質量の0.5%～4.0%の範囲でご使用ください。
- 冬期には凍結にご注意ください。

## 取扱い上の注意

- フローリック製品が皮膚に付着した場合には、清水で洗浄してください。
- 飲み込んだ場合には、直ちに吐き出し、必要に応じて医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合には、清水で洗眼し、医師の診断を受けてください。
- 詳細は、当社の安全データシート (SDS) をご覧ください。

## 荷姿

タンクローリ・20kg缶

## JIS A 6204 (コンクリート用化学混和剤) による試験結果

項 目	流動化剤 標準形 I種	
	JIS A 6204規定値	フローリックNSW
ブリーディング量の差 (cm <sup>3</sup> /cm <sup>2</sup> )	0.1以下	0.03
凝結時間の差 (分)	始発	-60~+90
	終結	-60~+90
圧縮強度比 (%)	材齢 7日	90以上
	材齢28日	90以上
長さ変化比 (%)	120以下	101
凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)	60以上	85
経時変化量 (15分後)	スランプ (cm)	4.0以下
	空気量 (%)	±1.0以内



本 社 〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-10-1 TEL.03-5960-6911 FAX.03-5960-6915  
 ホームページ: <http://www.flowric.co.jp>

記載データは、標準的な材料を使用して行った試験結果です。使用材料、配(調)合が異なる場合やコンクリートの打設される環境条件が異なる場合の状態を保証するものではありません。事前の試し練りなどで性能を確認することをお勧めします。